

内閣府青年国際交流事業の紹介

内閣府では、国際社会や地域社会で活躍する次世代グローバルリーダーの育成を目指して、「世界青年の船」事業をはじめとする6つの国際交流事業を実施しています。

「世界青年の船」事業

1967年度開始の「明治百年事業」にルーツがある事業です。毎年異なる世界10か国から集まった外国青年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行います。プロジェクトマネジメントや異文化対応を、理論・実践の両面で強化することに重点をおいた事業です。（約30日間）



「東南アジア青年の船」事業

1974年に開始したわが国と、ASEAN10か国の青年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行います。東南アジア各国から選びぬかれた青年とのネットワークを構築するとともに、アジア地域の未来を担う人材の育成を図ります。（約40日間）



国際青年育成交流事業

皇太子殿下の御成婚を記念して1994年に開始した事業です。バルト三国や中南米及びアジア諸国などに日本青年を派遣し、訪問国では現地青年との社会事情に関するディスカッション、企業等施設訪問及びホームステイを行います。また、帰国後は、日本に招へいされた外国青年と一緒に会して国際交流会議に参加し、3日間にわたる外国青年とのディスカッションを通じてプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めます。（18日間）



日本・中国青年親善交流事業

1978年の日中平和友好条約の締結を記念し、1979年から開始された日中両国政府による共同事業です。文化紹介やホームステイを通じた交流とともに、ビジネス環境・就職・ボランティアの状況などについて、両国の共通点や相違点などを掘り下げて考える機会ともなる大学生との意見交換、グローバルに飛躍をとげる中国の先進企業訪問、起業をめぐるビジネス制度等に関連する施設の訪問等を行う多彩なプログラムです。（12日間）



日本・韓国青年親善交流事業

1984年の日韓両国首脳会議における共同声明の趣旨を踏まえ、1987年から開始された日韓両政府による共同事業です。文化紹介やホームステイを通じた交流、文化、教育、社会福祉等の各種施設の訪問等も行います。これらを通じて、日韓関係の将来に向けたありようについて踏み込んで考え、どのような領域で青年たちが東アジア地域の発展に貢献できるのかを考えてゆく機会ともなります。また、日本に招へいした韓国青年と日本青年との合宿文化交流会等を行なっています。（15日間）



地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」

高齢者、障がい者、青少年の3分野に特化した社会活動経験者向けの派遣事業です。各国で同じ分野で働く同世代の若者との交流や政府機関・関連団体及び施設の訪問や意見交換等を通じて、人的ネットワークを形成し、社会課題解決能力を高めます。（10日間）



明治150年記念「世界青年の船」事業 参加青年募集！

本事業は、日本と世界の10か国の青年が、6日間の陸上研修及び34日間の船上研修(訪問国活動を含む。)に参加し、ディスカッションやセミナーなどの各種の研修や交流活動を行う。

1. 訪問国

オーストラリア連邦(訪問国活動)他

2. 参加国

オーストラリア連邦、チリ共和国、エクアドル共和国、ギリシャ共和国、ソロモン諸島、スウェーデン共和国、タンザニア連合共和国、トルコ共和国、アラブ首長国連邦、バヌアツ共和国及び日本

3. 事業日程

平成30年 9月14日(金) ~	19日(水)	事前研修(日本参加青年のみ)
平成31年 1月19日(土) ~	20日(日)	出航前研修(日本参加青年のみ)
1月21日(月) ~	26日(土)	陸上研修
1月27日(日) ~	3月1日(金)	船上研修
3月1日(金) ~	3月2日(土)	帰国後研修(日本参加青年のみ)

4. 選考試験

東京会場:平成30年6月30日(土)、7月1日(日)

大阪会場:平成30年7月7日(土)

5. 応募方法

詳細は内閣府ホームページ(<http://www.cao.go.jp/koryu/>)をご覧ください。

応募の際には、応募様式を内閣府ホームページ(PDFのみ)又は日本青年国際交流機構(IYEO)ホームページ(ワードあり)でダウンロードの上、内閣府青年国際交流担当室に提出してください。(平成30年5月31日(木)必着 ※簡易書留で郵送すること)

6. 留意事項

- 各種研修を含む、事業の全日程に参加可能であること
- 過去に内閣府が行う青年国際交流事業に参加したことがある人は応募できません(地域リーダープログラムを除く)

【応募資格】

- 日本国籍を有すること
- 18歳~30歳(生年月日:昭和62年4月2日から平成32年4月1日まで)
- 事業参加後も、国際交流活動、青少年活動等の社会活動を活発に行うことができる者
- 交流活動を円滑に行える英語力を有すること

【提出先】(参加申込書、作文等を提出)

〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1 中央合同庁舎8号館8階
内閣府青年国際交流担当室

【実施期間】

陸上及び船上研修期間(予定) 平成31年1月21日(月)~3月1日(金)

一 応募締切(郵送):平成30年5月31日(木)必着一

※簡易書留で郵送すること

問い合わせ先:内閣府青年国際交流担当室(月曜日~金曜日 9:30 ~18:15(祝日除く))
〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1 Tel:03-6257-1434 Fax:03-3581-1609



平成 29 年度「世界青年の船」事業 帰国報告会

ご挨拶

本日は、平成 29 年度「世界青年の船」事業の帰国報告会にお越しくださり、誠にありがとうございます。報告会の実施にあたりましては、内閣府、日本青年国際交流機構、青少年国際交流推進センターの方々、その他関係者のみなさまに多大なるご支援・ご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

私たちは日本代表参加青年として、国籍、肌の色、社会背景、宗教が、自身と異なる約 120 人の外国参加青年たちと生活を共にしました。帰国して 2 カ月半が過ぎた今なお、多様な青年たちとの集団生活、ディスカッションやセミナー、寄港地での活動などを通じた学びは、色褪せることはありません。

様々な多様性を感じた 40 日でした。多様性を感じたのは、外国参加青年との生活だけではありません。同じ日本参加青年の中でも、さまざまな経験や背景を持った方々がたくさんいて、いまなお刺激を受ける毎日です。

本日は、「私たち一人ひとりが潜在的に有しているリーダーシップを、国際舞台において発揮した経験」や、その経験を活かして「この先どう日本と世界をつないでいくのか」について、お話します。この報告会を通して、本事業の魅力と成果を感じていただけたら幸いです。

「世界青年の船」事業に参加した私たちに今、一番求められていることは、この経験を、想いを、今後の自分たちの活動、人生に結び付けていくことだと思います。この経験を、これからも社会に還元していくべく、私たちは邁進します。



帰国報告会 実行委員長 寺尾光平

本日のスケジュール	
12:30	開場
13:00	開会の挨拶
13:10	内閣府青年国際交流事業の説明
13:25	帰国報告会実行委員長 挨拶
13:30	参加青年による発表
	・「世界青年の船」動画の上映
	船上での日々①
	・PYセミナー、スキルセミナー
	・コース・ディスカッション
	・夜のフリータイム
	船上での日々② (休日)
	・自主活動：TEDトーク
	・クラブ活動
	・Japan Festival
	船上での日々③
	・リーダーシップ・セミナー
	・自主活動：美しさの多様性
	ナショナル・プレゼンテーション (NP)
	訪問国活動
14:30	休憩
14:50	パネルディスカッション
	・船内でのコミュニケーションの取り方
	・世界11ヵ国240人との共同生活
	・学生参加者と社会人参加者
	・他プログラム（語学留学、ホームステイなど）との違い
15:20	ブース&相談コーナー
16:20	閉会の言葉
16:30	終了